

別紙 1

カリキュラムについて

◎重度訪問介護従業者養成研修課程

(基礎研修課程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	3		
1 重度の肢体不自由者の地域生活等に関する講義	2	居宅介護に従事する際の職業倫理について理解し、利用者の地域での生活の状況を把握する	<ul style="list-style-type: none"> 福祉業務従事者としての倫理 在宅生活を取り巻く状況
2 基礎的な介護技術	1	ホームヘルプサービスに従事する際の職業倫理について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 介護の目的、機能と基本原則 良好な姿勢保持の方法と留意点 安全な食事介助の方法 等
II 実習	7		
1 基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーション技術	5	食事、排泄、その他在宅介護を行うにあたっての基礎的な介護技術を習得する	<ul style="list-style-type: none"> 食事の介護 排泄・尿失禁の介護 衣類着脱の介護 体位・姿勢交換の介護 生活(清拭、洗髪、口腔ケア等)の介護 等
2 外出時の介護技術に関する実習	2	車椅子への移乗の方法を修得する 車椅子での移動介護の場合の車椅子の取り扱いや移動方法を修得する	<ul style="list-style-type: none"> 床と車椅子間の移乗 ベットと車椅子間の移乗 車椅子の取り扱い方 車椅子移動介助における注意 平地での移動 階段における移動 エスカレーター、エレベーターの利用 乗り物を利用する場合の注意 歩行移動介助方法の留意点 等
合計	10		

(追加研修課程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	7		
1 医療的ケアを必要とする重度訪問介護利用者の障害及び支援に関する講義	4	在宅生活援助に必要な医学・在宅看護の基礎的な知識を理解し、重度訪問介護利用者への食事・排泄等の介護方法について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な疾患の基礎知識と予防・対処方法 風邪、発熱、腹痛、火傷、骨折、食中毒 等 身体の観察 観察の視点、体温測定、血圧測定 等 薬の飲ませ方と保管 医療関係制度の基礎知識 介護保険法における特定疾病の概要 安全な介護方法(食事・清拭・洗髪等)
2 コミュニケーションの技術に関する講義	2	重度訪問介護利用者へのサービス提供を円滑に実施していくため、言語障害について理解し、対応について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 言語障害を伴う障害の種類と特徴 筋萎縮性側索硬化症 言語障害のある人への接し方と意思疎通方法とその留意点 利用者個々のコミュニケーションの取り方 意思伝達装置(トーキングエイド等)の使用方法 等
3 緊急時の対応及び危険防止について	1	サービス提供中に起こりうる緊急時の対応と危険防止の方法を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 介護提供時の事故防止の留意点と退所のしかた 緊急時の対処のしかた 利用者への対応、連絡体制 等
II 実習	3		
3 重度障害者の介護サービス提供現場での実習	3	実際にサービス提供を実施している現場で、介護従事者の利用者への対応等を習得する	<ul style="list-style-type: none"> 基礎研修課程での実習1、2を踏まえ、障害程度区分五又は六である肢体不自由者に対して、実際のサービス提供現場での介護を体験する
合計	10		

(統合過程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	11		
1 重度の肢体不自由者の地域生活等に関する講義	2	居宅介護に従事する際の職業倫理について理解し、利用者の地域での生活の状況を把握する	<ul style="list-style-type: none"> 福祉業務従事者としての倫理 在宅生活を取り巻く状況
2 基礎的な介護技術	1	ホームヘルプサービスに従事する際の職業倫理について理解する	<ul style="list-style-type: none"> 介護の目的、機能と基本原則 良好な姿勢保持の方法と留意点 安全な食事介助の方法 等
3 コミュニケーションの技術に関する講義	2	重度訪問介護利用者へのサービス提供を円滑に実施していくため、言語障害について理解し、対応について学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 言語障害を伴う障害の種類と特徴 筋萎縮性側索硬化症 言語障害のある人への接し方と意思疎通方法とその留意点 利用者個々のコミュニケーションの取り方 意思伝達装置（トーキングエイド等）の使用方法 等
4 喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義①	3	喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害や喀痰吸引の手順を正しく理解し、緊急時の対応及び危険防止に関する知識を修得する	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸について 呼吸異常時の症状、緊急時対応 人工呼吸器について 人工呼吸器に係る緊急時対応 喀痰吸引概説 口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部の吸引 喀痰吸引のリスク、中止要件、緊急時対応 喀痰吸引の手順、留意点
5 経管栄養を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義②	3	経管栄養を必要とする重度障害者の障害や経管栄養の手順を正しく理解し、緊急時の対応及び危険防止に関する知識を修得する	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態の把握 食と排泄（消化）について 経管栄養のリスク、中止要件、緊急時対応 経管栄養の手順、留意点
II 演習	1		
喀痰吸引等に関する演習	1	喀痰吸引等の手順を習得する	<ul style="list-style-type: none"> 喀痰吸引（口腔内） 喀痰吸引（鼻腔内） 喀痰吸引（気管カニューレ内部） 経管栄養（胃ろう・腸ろう） 経管栄養（経鼻）
III 実習	8.5		
(1)基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーション技術	3	食事、排泄、その他在宅介護を行うにあたっての基礎的な介護技術を習得する	<ul style="list-style-type: none"> 食事の介護 排泄・尿失禁の介護 衣類着脱の介護 体位・姿勢交換の介護 生活(清拭、洗髪、口腔ケア等)の介護 等
(2) 外出時の介護技術に関する実習	2	車椅子への移乗の方法を修得する 車椅子での移動介護の場合の車椅子の取り扱いや移動方法を習得する	<ul style="list-style-type: none"> 床と車椅子間の移乗 ベットと車椅子間の移乗 車椅子の取り扱い方 車椅子移動介助における注意 平地での移動 階段における移動 エスカレーター、エレベーターの利用 乗り物を利用する場合の注意 歩行移動介助方法の留意点 等

(3)重度障害者の介護サービス提供現場での実習	3.5	実際にサービス提供を実施している現場で、介護従事者の利用者への対応等を習得する	・基礎研修課程での実習1、2を踏まえ、障害程度区分五又は六である肢体不自由者に対して、実際のサービス提供現場での介護を体験する
合計	20.5		

※社会福祉士及び介護福祉法の一部を改正する法律の施行について（喀痰吸引等関係）（平成23年11月11日社援発1111第1号厚生労働省社会・援護局長通知）第5の2（4）により第3号研修の一部履修免除として取り扱われる科目については、当該通知に基づく科目を履修したものとして取り扱うことができる

(行動障害支援課程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	6.5		
1 強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義	1.5	強度行動障害とは	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の対象となる行動障害 ・強度行動障害の定義 ・強度行動障害支援の歴史的な流れ ・知的障害／自閉症／精神障害とは ・行動障害と家族の生活の理解 ・危機管理・緊急時の対応
		強度行動障害と医療	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害と精神科の診断 ・強度行動障害と医療的アプローチ ・福祉と医療の連携
2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	5	強度行動障害と制度	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援給付と行動障害／他 (例) 支援区分と行動関連項目・重度訪問介護の対象拡大・発達障害者支援体制整備・強度行動障害支援者養成研修
		構造化	<ul style="list-style-type: none"> ・構造化の考え方 ・構造化の基本と手法 ・構造化に基づく支援のアイデア
		支援の基本的な枠組みと記録	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の基本的な枠組み ・支援の基本的なプロセス ・アセスメント票と支援の手順書の理解 ・記録方法とチームプレイで仕事をする大切さ
		虐待防止と身体拘束	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止法と身体拘束について ・強度行動障害と虐待
		実践報告	<ul style="list-style-type: none"> ・児童期における支援の実際 ・成人期における支援の実際
II 実習	5.5		
1 基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習	1	情報収集とチームプレイの基本	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の入手とその方法 ・記録とそのまとめ方と情報共有 ・アセスメントとは

2 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習	3	固有のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なコミュニケーション方法 ・コミュニケーションの理解と表出 ・グループ討議／まとめ
3 行動障害の背景にある特性の理解に関する演習	1.5	行動障害の背景にあるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚・知覚の特異性と障害特性 ・行動障害を理解する冰山モデル ・グループ討議／まとめ
合 計	1 2		

◎同行援護従事者養成研修

(一般課程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	8.5		
1 外出保障	1	視覚障害者（児）の外出について考えるとともに、生活を支える視点や視覚障害者（児）の外出保障を担うことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・外出保障とは ・外出保障の歴史 ・外出保障の現状
2 視覚障害者の理解と疾病①	1	視覚障害者（児）の様々な見え方、見えにくさによる不便さ、および業務において直面する頻度の高い疾病についての留意点を学び、具体的な支援について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害の理解（視覚障害による不便さ、必要な情報）
3 視覚障害者の理解と疾病②	0.5	視覚障害者（児）の様々な見え方、見えにくさによる不便さ、および業務において直面する頻度の高い疾病についての留意点を学び、具体的な支援について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害と疾病の理解（様々な見えかた・見えにくさ、主な眼疾患の特徴とその見えにくさについての支援のポイント）
4 視覚障害者（児）の心理	1	視覚障害者（児）の心理に対する理解を深め、心理的援助のあり方について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・全盲の心理 ・ロービジョンの心理 ・視機能低下の心理 ・障害発生時期の心理 ・外出時の心理
5 視覚障害者（児）福祉の制度とサービス	1.5	障害者（児）福祉の制度とサービスの変遷を踏まえ、関係法や制度を理解する。同行援護従業者が外出時に活用可能な制度、および視覚障害者（児）が利用する関係施設を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉の動向 ・障害者福祉に関連する法律 ・障害者総合支援法 ・視覚障害に関する施設等 ・障害者を対象としたその他の制度施設
6 同行援護の制度	1	同行援護の成り立ちや制度の仕組み、同行援護以外の外出制度等について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・同行援護以前の外出支援制度の歴史 ・同行援護制度の概要 ・他の外出支援制度との関係 ・同行援護制度の課題
7 同行援護従業者の実際と職業倫理	2.5	従業者の役割、派遣の流れ、具体的な業務内容と職業倫理を理解する。利用者の様々な状態に合わせた支援方法や外出に必要な知識を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・同行援護従業者の業務内容 ・同行援護従事者の職業倫理 ・同行援護の実際（様々な利用者への対応等）
II 講義・演習	3.5		
1 情報提供	2	情報提供の方法や内容を理解し、実際の場面別の情報提供方法を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供とは ・情報提供の内容 ・場面別情報提供の実際 ・情報提供時の配慮 ・演習（3題程度）
2 代筆・代読①	1	代筆・代読の内容を理解し、実際の場面別の代読・代筆の方法を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・代読（業務における代読、代読の範囲・基本的な方法、留意点） ・代筆（業務における代筆、代筆の範囲、基本的な方法、留意点・代筆できないもの） ・演習（代読1題・代筆1題）

3 代筆・代読②	0.5	代筆・代読の内容を理解し、実際の場面別の代読・代筆の方法を習得する。	・代読・代筆の具体的な方法
Ⅲ演習	1.6		
1 誘導の基本技術①	4	誘導に必要な情報提供と基本技術を習得する。	・椅子への誘導・階段（スロープ、溝などをまたぐ、段差）
2 誘導の基本技術②	3	誘導に必要な情報提供と基本技術を習得する。	・基本姿勢・歩く（誘導の考え方、あいさつ、基本姿勢、やってはいけないこと、歩く、止まる、曲がる、方向転換） ・狭いところの通過、ドアの通過
3 誘導の応用技術（場面別・街歩き）①	4	様々な場面での具体的な誘導方法を習得する。実際の街歩きにより、誘導時の留意点や具体的な誘導技術を習得する。	・共通（トイレ、食事） ・街歩き（歩道、歩車道の区別のない道路、天候、踏切、グレーチング、混雑地、様々なドア、様々な段差）
4 誘導の応用技術（場面別・街歩き）②	1	様々な場面での具体的な誘導方法を習得する。実際の街歩きにより、誘導時の留意点や具体的な誘導技術を習得する。	・場面別（病院・薬局、買い物、行政窓口、金融機関、会議・研修、余暇活動、冠婚葬祭）
5 交通機関の利用	4	交通機関の乗降練習等を通して、移動支援技術を習得するとともに、乗車中の留意点を理解する。	・電車の乗降 ・バスの乗降 ・車の乗降 ・船・飛行機の乗降
合 計	2.8		

(応用課程)

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	6		
1 サービス提供責任者の業務	1	事業所やサービス提供責任者の役割を学び、利用者のニーズに基づいた質の高い派遣がサービス提供責任者の下で行われるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の体制 ・事業所の役割 ・サービス提供責任者の役割 ・サービス提供責任者の業務
2 様々な利用者への対応	1	利用者の多様化について理解し、重複障害等の特性を踏まえた外出に必要な知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、障害の重度化・重複化の現状 ・高齢の視覚障害者、重複障害者への支援の留意点
3 個別支援計画と他機関との連携	1	サービス等利用計画に基づき、サービス提供責任者が事業所で策定する個別支援計画や関係機関との連携等について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の策定 ・関係機関との連携
4 業務上のリスクマネジメント	1	事業所としてリスクマネジメントを図るため、同行援護従業者の派遣にあたり発生の可能性がある事故や発生時の管理体制等について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所のリスクマネジメント ・同行援護従業者のリスクマネジメント ・事故発生時の管理体制
5 従業者研修の実施	1	事業所内の同行援護従業者に対する研修の目的や内容等について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・従業者研修の目的 ・従業者研修の内容 ・従業者の質の向上のための工夫
6 同行援護の実務上の留意点	1	同行援護制度の実務上の留意点や他の福祉制度との関係について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・同行援護の制度上の留意点 ・同行援護の実務上の留意点 ・介護保険制度との関係
合計	6		

◎行動援護従事者養成研修

科目名	時間数	目的	内容
I 講義	10		
1 強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義	1.5	強度行動障害とは	<ul style="list-style-type: none"> ・本研修の対象となる行動障害 ・強度行動障害の定義 ・強度行動障害支援の歴史的な流れ ・知的障害／自閉症／精神障害とは ・行動障害と家族の生活の理解 ・危機管理・緊急時の対応
		強度行動障害と医療	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害と精神科の診断 ・強度行動障害と医療的アプローチ ・福祉と医療の連携
2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義	5	強度行動障害と制度	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援給付と行動障害／他 (例) 支援区分と行動関連項目・重度訪問介護の対象拡大・発達障害者支援体制整備・強度行動障害支援者養成研修
		構造化	<ul style="list-style-type: none"> ・構造化の考え方 ・構造化の基本と手法 ・構造化に基づく支援のアイディア
		支援の基本的な枠組みと記録	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の基本的な枠組み ・支援の基本的なプロセス ・アセスメント票と支援の手順書の理解 ・記録方法とチームプレイで仕事をする大切さ
		虐待防止と身体拘束	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止法と身体拘束について ・強度行動障害と虐待
		実践報告	<ul style="list-style-type: none"> ・児童期における支援の実際 ・成人期における支援の実際
3 強度行動障害がある者へのチーム支援に関する講義	3	強度行動障害支援の原則	<ul style="list-style-type: none"> ・チームによる支援の重要性 ・支援の6つの原則 ・地域で強度行動障害の人を支える
4 強度行動障害と生活の組立てに関する講義	0.5	行動障害のある人の生活と支援の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・行動障害のある人の家族の思い ・日中活動場面における支援 ・夕方から朝にかけての支援 ・外出場面における支援
II 演習	14		
1 基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習	1	情報収集とチームプレイの基本	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の入手とその方法 ・記録とそのまとめ方と情報共有 ・アセスメントとは
2 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習	3	固有のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なコミュニケーション方法 ・コミュニケーションの理解と表出 ・グループ討議／まとめ
3 行動障害の背景にある特性の理解に関する演習	1.5	行動障害の背景にあるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚・知覚の特異性と障害特性 ・行動障害を理解する氷山モデル ・グループ討議／まとめ

4 障害特性の理解とアセスメントに関する演習	3	障害特性とアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性の理解 ・障害特性に基づくアセスメント ・行動の意味を理解する
5 環境調整による強度行動障害の支援に関する演習	3	構造化の考え方と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・強みや好みを活かす視点 ・構造化の考え方 ・構造化の方法
6 記録に基づく支援の評価に関する演習	1.5	記録の収集と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・行動の記録の方法 ・記録の整理と分析 ・再アセスメントと手順書の修正
7 危機対応と虐待防止に関する演習	1	危機対応と虐待防止	<ul style="list-style-type: none"> ・危機対応の方法 ・虐待防止と身体拘束
合 計	24		